

□トランペット片手にブラジル一人歩き(15)

## マリアと僕の マサヲズイニヨ

絵と文 右近 雅夫(在ブラジル・サンパウロ)



家内のマリアが妊娠したのを知ると、僕は早速サンパウロの日本人街で「いりじゃこ」や「小えび」の干したのを買って来て、からからに煎ったのを空缶に入れて置いて毎日食べさせる事にした。彼女は前の年に流産したので、今度こそは失敗するまいぞと一生懸命だった。僕は母が、「マリアさんに読んであげ。」と言って貸してくれた頁の黄色くあせた「主婦の友」の附録「出産と育児」をポルトガル語で説明しながら、二人して赤ん坊の生まれて来るのを待ち焦らしていた。ジャズを演奏するライブハウスは煙草の煙がもうもうとしており、胎児に良くないというので、子供が生まれて来る迄の間、僕が演奏に行く時、家内は家で当分留守番という事になった。

やつと無事男の子が生まれ、マリアの希望で「マサヲズイニヨ」と呼ぶ事にした。名詞の後に「……ズイニヨ」とつけるとポルトガル語では「小っちゃな」という事を意味し愛称として用いられるのである。生まれた赤ん坊に父親の名を付けるのは、ブラジルの古くからの習慣であるが、それに猛反対の僕の両親や妹達を納得させるには

随分時間がかかった。日本人の名前をつけると子供が学校でいじめられやしないか?という他愛のない心配からで、そういえば先に生まれた妹達の子供には皆ブラジルの名前がつけられていた。

妻は当時州立高校の教師をしていたので、生まれて来た赤ん坊は一年と八カ月すると、「おむつ」や哺乳瓶を入れた袋と一緒に、朝僕等が仕事に出る時保育園に頂けられる事になった。やつと口がきける様になったばかりの子供を朝早くから起こして、二人で保育園に連れて行くという毎日が続いたが、夫婦共稼ぎをやって行くには他に方法が無かった。しかし毎朝子供を保母さんに預ける時、母親にしがみついて泣くので、「如何してそんなに泣くの?。」と家内が聞くと、「マサヲズイニヨ、オイエカラ、アンヨシテイケルトコナラ、ナカナイ。」と泣きじやくりながら言った。「生命の始まり」という名のその保育園は家からかなりの距離で、車でも相当時間がかかったので、子供がてら不安を感じたのであろう。幸い暫くして家の近所に保育園が出来、その問題は解決した。学校の授業を午前中に切り上げる様にしたマリア

は、帰りにマサラズイニヨを迎えに行き、午後はもっぱら一緒に過した。「母親が子供と毎日少しでも一緒に過す事が、しつけに大切だから。」というのが彼女の説である。

子供が段々成長して幼稚園に行く頃になると、夜寝しなに、「ボア・ノイテ・パーイ、オヤスミナサイ。」と言ったかと思うと、「パーイ、今夜は何かお話を聞かせてよ。」とせがまれる事がある。そんな時、僕は作の横に寝ころび、自分が小さい頃母がよく絵本を買ってくれたので、大人になっても今だに憶えている「青い鳥」の物語りを聞かせてやる事になっている。両親と平和に暮らしていた主人公の子供が、或る日「幸福の青い鳥」を求めて森の中に迷い込み、やっとの事で自分の家にとどり着くが、方々探し歩いて見つける事の出来なかった「青い鳥」が我が家の裏庭の鳥籠の中で囀っているのに気付いたというストーリーである。「幸福とは案外身近かな処に在るんだよ、心の目



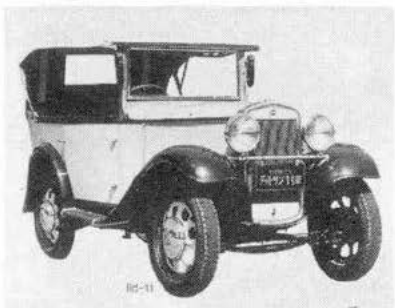
マサラズイニヨ—8歳の頃

を大きく開けて良く見てごらん。」と、そこで僕は息子に言って聞かせるのである。

マリアが熱心な教育ママであるせいも、息子のマサラズイニヨは父親の僕に似ず何時も学校の成績が優秀である。彼が小学校の四年生になる時、家内の意見で Colegio Sto. Americo というカトリック系のモデル・スクールに転校試験を受けさせようという事になった。ローマ法王が来伯した時、宿舎にあてられた僧院が校庭の一角にある由緒ある学校で、試験当日には五つの空席に八十人の入試志望者が殺到した。家内と僕は運を天に任せて発表の日を待つより仕方なかったが、合格者名簿の中にマサオズイニヨの名を見つけた時は親子三人抱き合って喜んだ。

親の心配をよそに、転校後の新しい環境にも息子はすぐに馴れる様になった。幼い頃から「おしめ袋」と共に保育園を転々とした経験がプラスしたのであろう。学校の成績の方も相変わらずクラス一番で通し続けたが、僕の親戚一党が案じた様に、名前が日本人だからといってクラスメートからいじめられるという事も無かった。

但し親子が同じ名前なのにとんだ失敗をする事もあった。或る日、家で電話の応待に出たマリアに、「マサヲを呼んでくれ。」と男の声があったので、「私はマサヲの家内ですが。」と答えた処、息子の学校の先生からかかって来た電話で家内は弁解に困っていた。学校では息子の事を僕と同じく、「マサヲ」と呼んでいるからである。

E  
一九二〇年代・日本展B  
時代意識の接点を求めてO  
山野 英 嗣K  
〈兵庫県立近代美術館学芸員〉

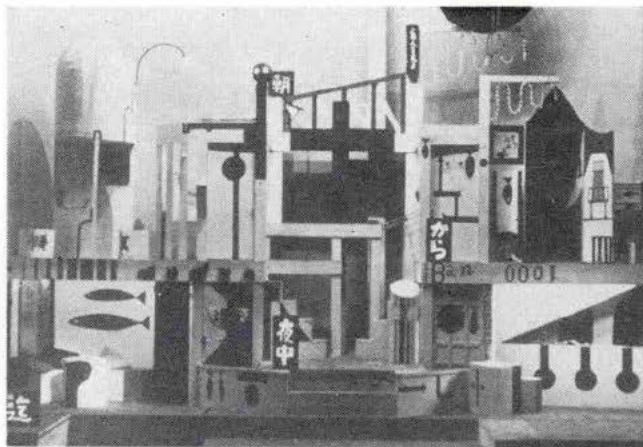
ゲットサン1号車 1932年

パリ、ベルリン、モスクワ、ニューヨークが近代都市として胎動しはじめ、これらの都市を舞台に、文化爛熟の「黄金の二〇年代」と謳われた一九二〇年代。都市計画といった思考が生まれ、高層ビルの建設がすすめられ、交通機関が発達して、この時代に今日の生活意識・生活空間のほぼ原型が築かれた。さらに日本においても、押し寄せるこの都市化の波に乗って、大正から昭和にかけての同時代に、東京、大阪、神戸をはじめとする都市が誕生し、ここに「都市の時代」の開幕を告げる若々しい都市文化が花開いたのであった。

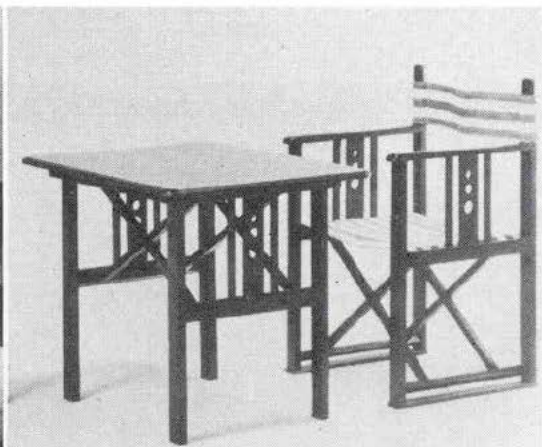
近年、東京論など、いわゆる都市について語られる機会が多いが、これらの論議が歴史的に再検討される場合、その出発点として、必ずこの一九二〇年代に熱い眼が注がれている。「現代は一九二〇年代の模倣にすぎない」とまでいわれ、今日改めてこの時代のモダニズム文化が問い直されて、こうした動きがレトロ・ブームの引き金ともなっているようである。

だが、このような現象は、単に懐古趣味とか、流行の繰り返しといった言葉だけでは説明できない奥深さをもっているのではないだろうか。現代、そして一九二〇年代という時代間を激しく振動している「何か」があるのではないか。現代人と一九二〇年代人に共通する時代意識があるのではないか。今回の「一九二〇年代・日本」展は、造形活動という視点を通して、これらの問題を探ろうとする大胆な試みであった。

そのために、これまでの美術展のイメージを超えて、絵画、彫刻のみならず、写真、建築模型、家具、工芸品、ポスター、舞踊、雑誌など多岐にわたる様々な作品・資料を網羅し、一九二〇年代を特徴づけるこれらの展示物によって、いわば一時代を彩るかたちと色をそっくり再現しようとしたのであった。けれども、「一九二〇年代・日本」展が、このような広範囲の領域を含めた総合展の方法をとった背景には、単に一九二〇年代に生み出された様々のものを集めただけではなく、ひとつの表現が、他の表現要素と複雑に関係し合い、切り離すこと



村山知義「朝から夜中まで」舞台装置 1924年



日本美器ヤマハ量産家具 1928年

ができないからでもある。それはまた、この時代に誕生した都市が、すでに政治や経済の複合的な集積体となって機能しはじめ、造形活動といった文化活動をも巻き込んでいるからである。

たとえば、この時代に姿を現しはじめたデザインという意識は、この時代に活発化する情報産業としての新聞に掲載された広告、あるいは大量消費に支えられた百貨店が打ち出すポスターなどにいち早く芽生えており、これらの表現物が、より視覚的にアピールする様相を濃くする要因となっていたのである。さらに、文字通り今日のモーターゼーションの嚆矢となった国産自動車第一号の「ダットサン一号車」のモデルさえ、アメリカで一九二七年に売り出され、斬新なスタイルで人気を呼んだフォードA型車を手本としていた。ここには明らかに、都市化によってもたらされた大衆化や国際化の問題が潜んでいる。

また、「一九二〇年代・日本」展の展示物の中でも、最も迫力があり、美術展としても異色であった「築地小劇場舞台装置」の再現にも触れなければならない。築地小劇場で開かれた進取の気風に富む数々の劇で、一番評判となった「朝から夜中まで」のステージ。それを今回、原寸で再現した。ゲオルク・カイザーの原作をもとに、わが国前衛美術運動の旗手村山知義が考案したこの舞台装置は、カラフルな照明効果を伴い、当時の面影を生々しく伝えている。

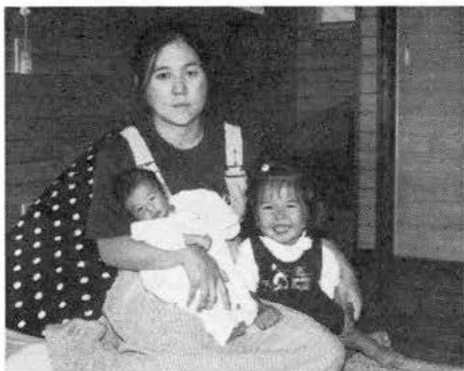
この時代、ヨーロッパで次々と生まれた新傾向、新動向の美術表現。アングラやパフォーマンスといった表現の原型も一九二〇年代に誕生した。意外にも、作曲家山田耕筰でさえ、これらの動きに敏感で、舞踊詩や舞踊劇のような諸芸術の総合化を提唱していたのである。ジャンルを超えて、諸芸術の交流がダイナミックに展開されていた一九二〇年代。都市化、大衆化、国際化の波が、築地の舞台に鮮やかに集約されている。そして、パリやニューヨークと同じく、確かに東京や大阪にも、一九二〇年代という時代気分が存在していたのである。



SAMOTO CLINIC

佐本  
産科

ママといっしょに



赤ちゃん

松本 典子ちゃん (昭和63.9.27生)

神戸市兵庫区在住

“明るい、元気な、みんなに好かれる  
子供に育ちますように。”

★佐本産科・婦人科★

佐本 学

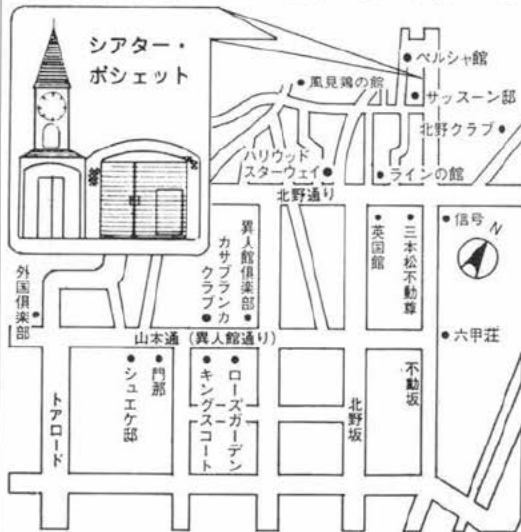
神戸市兵庫区中道通4-1-15  
☎575-1024(病室☎576-9639)  
市バス上沢4停南スグ

実験交流サロン

シアター・ポシェット

12月の公演

2日(金)	18:30	「ゴジラ」	
3日(土)	14:00	大橋泰彦・作	
	18:30	夏目俊二・演出	
4日(日)	14:00		(2000円)
10日(土)	18:00	「ある日、ほくらは夢の中で	
11日(日)	16:00	「出会う」神戸学院大学イクスクラ	
		メーション	(500円)
18日(日)	14:00	春野久美子・バレシアター	(有料)
25日(日)	14:00	サロン・クリスマスコンサート	
26日(月)	18:00	サロン・クラシックシアター	



★シアター利用のご案内

- 曜日、時間/土、日曜日(通常) LM10:00-PM3:00
- 費用/ホール設備の使用無料。光熱、空調、管理費のみ実費
- 付帯設備/グランドピアノ・エレクトーン・録音、音響機器、ミキサー、照明コントローラー・テープレコーダー、マイク、映写機等
- お申し込み、お問い合わせ  
そごう前センター街東南角、さんちか入口  
〒650 神戸市中央区三宮町1丁目5-1 住友銀行ビル6F  
佐本小児歯科 佐本進 ☎3331-6302~3

## 経済ポケット ジャーナル



### ★開放型レジャーゾーンW

ATER WONDER  
WORLD 66年に誕生

六甲アイランドウオーターフロントパーク内レジャーゾーンの事業者に関西武百貨店関西(西武セゾングループ全体で対応)が決定した。神戸の国際性、先進性、文化性にふさわしい新しいタイプの都市型複合レジャー・アミューズメント施設を提案していく。ゾーンへの入場は原則無料の開放型レジャーゾーンで、キャナル(格子状運河)を利用した遊覧船の運行など、水辺を生かした様々な



演出が楽しめる。64年9月に着工し、56年の開業の予定。

### ★「神戸フアッション情報資料室」定例交流会

神戸のフアッション関連情報を集積し、情報発信基地となっている「神戸フアッション情報資料室」の定例交流会が、11月11日、神戸市勤労会館において開催された。第8回目となる今回は、生活をデザインする



講師の小田泰夫氏

時代とハイトークというテーマで、

佛東芝生活文化研究所所長の小田泰夫氏が講師を務めた。「デザインのキーワードはいかに心を豊かにできるか、ということ、自分の生き方、くらし方、考え方、といった生活文化をもう一度見直す時代になってきたのでは」と語りかけた。

### ★オプト'88

兵庫ジャパン開幕

レーザー、光通信など最先端の光技術をテーマに、オプト'88兵庫ジャパン(第1回オプトエレクトロニクス国際会議・見本市が神戸ポートアイランドで開催された。(11月14日~17日)

オプトエレクトロニクスは、光学とエレクトロニクスの融合による新しい技術分野で、その研究、開発には大きな関心が寄せられて



OPT'88  
HYOGO JAPAN

21世紀への新技術分野

いる。今回は第1線で活躍する専門家による国際会議と見本市が同時に開催され、光産業の一層の振興と研究の促進を図った。

### ★神戸経済同友会の新代表

幹事に野沢太一郎氏

神戸経済同友会は、六十四年度の新代表幹事に、野沢太一郎ノザワ社長を内定した。(正式決定は来年三月末に開く通常総会) 神戸



野沢太一郎氏  
同友会  
代表  
幹事

は二期二年を務めるのが慣例となっており、正式に決定すれば、来年度は二期目に入る本田千之代表幹事(神戸製鋼所専務)とともに、神戸経済同友会のリーダーとなる。同氏は昭和32年甲南大学経済学部卒業。旧神戸銀行に入行後、33年野沢石綿セメント(現ノザワ)へ。取締役、常務、副社長を経て42年5月より現職。

### ★KOBEOフィスレディ★

小笹尚子さん(24)  
〈大目法律事務所〉  
勤務



一緒にいてほっとする、そんな雰囲気を持ったお嬢さん。仕事は弁護士さん達が相手でおつかうところも多いそうだが、そこはもち前の明るさでカバーしているみたい。休日はコンサートに出かけたり、水泳、お花、映画鑑賞とバラエティーにとんだ過ごし方をしている。特に水泳は記録を持っていたほどの腕前。

神戸市在住 やき座のA型

シネマとジャズと  
そしてKOBÉ

淀川長治氏を囲んで

# ハイカラな 神戸のジャズ

□出席者

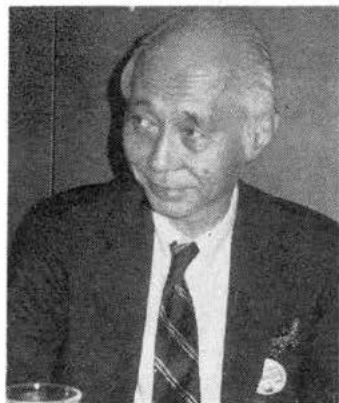
瀬川昌久<sup>△ジャズ評論家▽</sup>

末広光夫<sup>△プロデューサー▽</sup>

この秋の10月8・9日、北野界限で第7回神戸ジャズ・ストリートが開かれた。ちょうど芦屋に「芦屋市谷崎潤一郎記念館」が8日にオープンし、本誌でおなじみの映画評論家淀川長治先生が谷崎夫人の友人として来神された。翌日のジャズ・ストリートのフィナーレ、神戸外国倶楽部の会場へ出向いた淀川長治先生。ベギー葉山さんが淀川先生を舞台で紹介するというハプニングになった。そんな神戸の街がスウィングしている時、評論家の瀬川昌夫さん、プロデューサーの末広さんと共にジャズ映画の話に花が咲いた。

★神戸のジャズは

ハイカラな大学生の運動会  
淀川 小泉さんがトアロード  
やトリアホテルをご覧になり  
たくない?とおっしゃって  
くるくる、くるくる、妙なこ  
ろでじゃんじゃかどんどこ、



瀬川 昌久氏



ジャズ・ストリートに湧く神戸の外国倶楽部前で  
淀川長治氏とベギー葉山さん

司会/小泉美紀子<sup>(本誌副編集長)</sup>

「これ何ですか?」

「ジャズ・ストリートです」

「ジャズ・ストリートってジャズを演奏しながら街を歩くんですか?」

「いいえ、ジャズ・ストリートという名前です」

「へえ」と思っていたら最後にうまいこと舞台に出されて(爆笑)……とにかく、立錫の余地なくお客様が入っていらっしやあって、それが皆立派な大人で、少年の頃からジャズが好きで来ていらっしやる……さすが神戸と思っ

た。神戸でないところという感覚ないんです。僕が娘時代から知っているベギー葉山さんが、まるで娘がおじいちゃんを紹介するような感じで(笑)。場違いな舞台上がったんだけど、皆が嬉しい顔をして下さったから喜んでしゃべったね。

私が初めてニューヨークに行って聴

いたのが「ボギーとベス」で、もうそれがインフェルド劇場の終りで、その時のスポットティングライトはキャロウェイでした。それやこれやでわあっと拍手を頂いたのでよ。  
小泉 瀬川先生、神戸のジャズ・ストリートはいかがですか？



末広 光夫氏

淀川 もう神戸だ、という感じが舞台に出るなりしましたね。つまり東京ではハイランズみたいに、子供の玩具みたいに楽しむかあるいはうんとロジイ（理論的）かだけど、ここに来たら、全部の人がジャズを本当に知っていらっしやるという感じがしたな。これが神戸、これこそ神戸！

瀬川 もう素晴らしいですね。いろいろな感服しました。

やっぱり神戸でないとこういうことはできませんね。

小泉 そうですか。こういう（末広氏）仕掛人がおりますので。（笑）

瀬川 東京では聴けない種類のジャズがここでは生きていくという感じがしました。

末広 淀川先生がお客様の顔が良いとおっしゃったのを本当に痛感するんです。矢札ながら東京のお客さんがジャズを聴いている時にああいう顔をして下さらないんですよ。だんだん映画も音楽も難しくなってきた、なおさら難しい顔をして聴かなくちゃいけないと……。

瀬川 あの顔は確かに粹ですよ。

末広 別にレトロを狙った訳じゃないんですけどね（笑）これしかないからやっているんですけど。

淀川 東京ではどんなことでもジャズのお座敷に行った事ない。今日は小泉さんに騙されて来ましたがね（笑）神戸ではジャズがムードに生きています。ジャズのハイカラな大学生の運動会のようになった。（笑）まあ気持よかったですねえ。気取りが全然なかった。神戸ですねえ。ところで野口久光君は来られなかったの？

末広 ホテルまで取ってんですけど。

淀川 来なくて良かったってね。来てたらしゃべってばかりで寝られない！（爆笑）野口君のいかにも好きそうな雰囲気ですね。野口君は粹で、戦争の始まる前から僕にジャズを教えてくれたの、怖くて僕は。あんな気持の悪いもんは嫌だと。ところがピアノのジャズをどんどん教えてくれてね。戦前、襖に隠れてサンフランシスコのラジオを聴いた。それくらい好きだったの。

★トーカーの音にびっくり

映画は終わった！

小泉 無声映画から音が入った時の話を先生の講演会で聞きました感激しました……曲を全部歌われるんです。

淀川 その晩、皆、家のお味噌が腐ったなんて（爆笑）サイレントがトーカー



淀川 長治氏



ーになるといふのは絵に色が付くとかスクリーンがワイドになるとかと違う、大革命ね。考えられなようなことだったの。

フオノ博士がフオノフィルムを発明して、初めは博物館に行ったつもりで古川ロッパさんと一緒に見たの。初めのシヤーという雑音を、わあ音がするって喜んでる。

小泉 信じられませんか。

淀川 弁士もいないし、オーケストラばかりの音楽、で大統領の演説、エディ・キャンターのしやれた言葉、それからハイフェッツのヴァイオリン、びっくりしたの。ダンサーがドリゴのセレナーデで踊るのでびっくり仰天。大統領が、これがトーキーです、これが音の入るフオノフィルムですっていった。帰り途にロッパさん、僕の顔を見て「映画は終わったね」といったの。それぐらいびっくりした。

日本国中にトーキーが入ったのは昭和4年。例えば、女が手紙を書く、寄る必要のないカメラがずうっと寄ってアップになる。何のためそんなにアップにするのかというところ——ペン先の音を聞かせたいの。さらさらさらそれだけで寄るから顔なんかおかしいの、さらさらさら皆喜んじやうのね、その音に。レッドスキンという映画では頭に戴せた壺をびっくりして落とすとカチャーンノポーンノとうまいことノもう嬉しくて嬉しくて。(笑)

やがて音の使い方を知り出した頃「南海の白影」という映画。タイトルバックが波で貝殻が7つぐらいあるの。ザアツという波の音、タイトルが出てザアツと。それからダブルスパン、監督の名が出てザアツと。それで皆は海の匂がするといったんだ。そのうちに音楽スタッフの名が出て来るとザアツ、あああ、ザアツ、ウウウウーとなって来て、波がだんだんメロディーを作って、ウウウウー……(歌う)……ババーン。位置



サンセット大通りから

が変わって——よく覚えてる(笑)——カヌーで10人ぐらいのインディアンがやって来ると音楽は本格的になって来る。もうびっくり仰天したの、波の音がいつの間にか音楽になってゆくのが……。

そういう風にして音をどんな風に使えるかに僕等はびっくりし、トーキーは新しい角度で新しい感激を与えたね。だから映画はサイレント、トーキーは映画じゃない、と思ったのはあまりにもサイレントを愛し過ぎてトーキーを馬鹿にしていたから。けれどトーキーに負けたね。

ビリー・ワイルダー監督が「サンセット大通り」を作ったのね。主演のグロリア・スワンソン、これは御存知のサイレントの女王、トーキーになったら世間では忘れられているのに本人は大スターだって威張ってる。そこへ若い男のつばめ(ウィリアム・ホールデン)がきて、それを可愛がるわけ。ホールデンは全部トーキーの演技「カム アイキャンノットライク」グロリア・スワンソンは「ホワイ アイ ライク ユウ ホワイ ユウ ゴーホーム」なんていうの。その差が良いのよ。タバコを喫う時も一回だけ喫うのよ、無理に。ホールデンはポケットから出してポッポツと喫うのね。その差をどんなに上手に使っているか、ビリー・ワイルダー監督だからねえ。グロリア・スワンソンは全部サイレントの演技、ウィリアムホールデンはトーキーの演技。

「サンセット……」をそういう風な見方をする人は少ない。映画というのはいろんな意味で勉強になりますよ。

#### ★幼き頃からのジャズ体験

小泉 瀬川先生、ジャズはいつ頃から？

瀬川 私は大正13年生れですから、その頃日本にいわゆるジャズらしいものは入っていたんです。私が本当を知るののもっと後ですが、古い事が好きなもので資料でい

ろいろ調べました。父が仕事でイギリスに行って居りまして——父は東京市に勤めておりまして、東京市が大震災の時にフランス政府から金を借りたんですね、その交渉のために当時、イギリスにいまして、その頃よくパリに行って……。

淀川 その頃、何才ですか？

瀬川 私は2、3才です。当時イギリスではミュージカルが盛んだったんです。父が持ち帰ったイギリスのミュージカル「サニー」の主題歌「フー」のレコードを毎日聴いて覚えてしまった。英語の意味は分らないまま「フー」スイート マイハート アウェイ……(歌う)(笑)  
又当時、パリでは「ミスタンゲット」、これもね。それから「青空」や「アラビアの歌」などをしょっちゅう聴いてジャズ的なものが好きになってしまっって、物心ついたらもう見に行きたくなった。初めて見たのは「世紀の楽壇」あたりからですね。

淀川 その幼年時代に「サニー」の「フー」を、本場の英国のお聴きになって分らんなりに暗記なさっていたというのは、もう最高だよ。

瀬川 野口先生にその話をしましたら、当時のイギリスでの「サニー」のサウンド・トラックがあるんですね。それを先生、下さったんです。

淀川 あの先生はね、今は博愛精神で、何か良いものがあつたら上げようとして(笑)

瀬川 そうなんですよ、先生はすぐにO・Kなんですよ。よく、あんな古いもの、野口先生は……。

淀川 僕の頃を教えましょうか。あんたより二ケタ上だから、ただレコードを持って帰って蓄音機で「デージーデージー(歌う)……」と意味を分らないままに覚えた。

大正2・3年頃、幼稚園に行く前頃、レコードの中に笑いのメロディーの音楽があるのよ、アハハ、イヒヒ、ウフフ、ヒヒヒ……そんなの面白くって。ジャズを覚え



サンセット大通りのグロリア・スワンソンとウィリアム・ホールデン

たのは奇術の松旭斎天勝がアメリカから連れて帰ったのでね。

瀬川 そうですね。天勝が初めて本場の黒人ジャズバンドを連れて帰って来たんですよ。

淀川 ドラムに黒人の絵が描いてあって、でジャズって書いてあるの。それに電気が入ってジャズ……びっくりしてね、音がね……。

大正3、4年頃、舞台で女達がマンドリン弾いた後で暗転して、一人の女の子がジャズを歌う。まず

英語で、次に日本語で「私のパパさん誰でしょう。私のスイートハート誰でしょう」と歌うの。次に電気消して向うから客席にライトをあてる。私みたいな子供に当てたりおじいちゃんに当てたり。「私の彼氏いますかあ」なんてやるの。子供ながら何て粋な事をするんだろうと……それ、上演禁止。淫売みたいな事をやるなって。それで日本は遅れちゃった。

も一つ言いましようか。大阪の金持ちの道楽息子が芸者遊びに飽きて芸者を6人アメリカに連れて行って、一生懸命ジャズを教えたの。河合ダンスって言うの、女の子はカンカンダンスみたいに裾を引いて出て来てジャズをやるの。次に懐に隠したベルを取り出してチリンチリンと合奏する、その後又ダンス。それが芸者だよ。(笑)

瀬川 それは大阪の河合ダンスって有名ですね。大正時代はハイカラな時代だったんですね。昭和になっていわゆるダンスホールができてチケットダンサー、職業ダンサーと踊るようになったでしょ。でも大正時代はハイカラな人達が十日クラブとかいろいろ作って欧米式のダンスをやっていたんですよ。

小泉 そう、ソシアルダンスね。

瀬川 関西には本場のソシアルダンスがあったんですよ。神戸には東洋音楽学校というものがあつた。オリエンタ



姉妹と水兵からグロリア・デ・ヘヴン、ヴァン・ジョンソン、ジューン・アリスン

ルホテルを経営していた東洋汽船が、音楽学校出身者を船に乗せて船の上でデイナーミュージックとかダンスミュージックをやった。それからフィリピンやアメリカから来る船のバンドがオリエンタルホテルで演奏してダンス・パーティーをやった。ハイカラな時代のハイカラな場所なんですよ、神戸は。

淀川 本当に神戸は大正デモクラシーのものとやね。アサヒ館でサイレントの時代、金持の旦那さんと奥さんが「誠に申訳ございませんけれど楽団の方、ちょっと家に来て頂けませんか。」「どうぞ……と怪い感じ……皆流れるのね。全部人力車に乗って須磨に連れて行くの。どうぞ今日の映画のダンスをして下さい……僕も誘われて連れて行かれた。譜面台に楽譜があるの、それに全部冷酒が載っているの、でそこに肴や焼肉、載せてあるの。でやりながらちよっと口にする。最後に「どうもありがとうございました。それでは皆でワルツを踊りましょう」

その家のお座敷で皆と一緒にダンスを踊るの：ハイラズね。それではとお開き。そういうのが神戸なんです。

瀬川 そうなんです。まだ東京にはなかったんです。当時大阪や神戸にはお金持ちがいましたから、自分のお金でそういうことをやっていたんですよ。

淀川 サイレントの終り頃、パラマウントやどこでもトキーの用意をしていた。いずれトキーになるぞ……と。そうすると面白いの。デジタル・ド・デニーという役者でね。会社で「チャールストンを踊ろうか」とオフィスタイムにダンスをするのよ。「俺ちよっと女房に教えてやりたいの」……電話かけるの。画面が二つに分かれて、片方で奥さんが電話を聞いている。「お前そこにレコードあるかい」「何かけるの」「フー」「フーをかけるの?」そうすると「早く前へ来て、さあ合わせて一歩離して、二歩離して」ってね。トキーじゃないのにお

客さんにチャールストンを教えるのよ。「夜会服」ね。

★GIに教えられた戦後のジャズ

小泉 末広さんはいつですか？

末広 僕はやっぱり戦後ですよ。本格的なジャズという  
と戦後の進駐軍後の話であって、それまではドイツ映画  
とかフランス映画が全盛だったでしょう。ジャズはそち  
らの方からは流れて来ない。戦前のアメリカ映画はあま  
り記憶にないですけど。

淀川 トーキョーになったらアメリカ映画が来なくなっ  
てドイツやフランス、イタリー映画もなくなっしてしばらく  
映画御無沙汰だ。と戦後のGIが来た訳ね。私の家の近  
くにキャンプがあったの。

小泉 どこですか？

淀川 横浜の鶴見。GIがね「俺のキャンプどこかね」  
と聞くのよ。教えたら、この人は英語ができるという  
事になって遊びに来たのよ。来たら「何か音楽ないか？」  
って言うのね。「音楽がないと我慢ができない」と。何  
が欲しい？という「ミアマイガール」というの。そん  
なお宮さん参りみたいな音楽ないというのよ(笑)。随分  
音楽に飢えていたな。「ミー アンド マイガール」と  
いうのがあったのよ。

小泉 宝塚でつい最近ミュージカ  
ルを上演しました。

淀川 それでかけたら喜んだなあ  
音楽は日本では駄目だったのよ。  
ビング・クロスビーも駄目だった  
の。橋の上で男と女が「アイラブ  
ユー」なんて歌うことはないとい  
うのね。そんな馬鹿なことはない  
と。ところがさっきいったような  
GI手法で日本人に教えていった  
のね。レビニーが入るでしょう。  
で初めて分ってきた。

エルヴィス・プレスリーも初めは駄目。GIブルース  
から好きになってきたのね。サイレントの頃はかえって  
音楽があったのよ。良い伴奏が。

瀬川 ずいぶん音楽をご存知じゃないですか、その頃の。  
末広 瀬川先生、関西には宝塚っていうのがありますよ  
ね。宝塚での音楽なりそういうのが流行ったという形跡  
があるんですか？

瀬川 ええ、それは井田一郎さんという方が日本で初の  
ジャズバンドを作って大阪と神戸でやった。その頃はま  
だダンスホールがないからお金持ちが十日クラブなどを  
作って。北尾さんという方がパトロンで皆、楽器を買  
ってくれたとかいって。

末広 それを探しているんですけどね。古い人に話を聞  
くと元町じゃなくておそらく今のセンター街だろうと思  
うんですけどね。

淀川 北尾さんという人は楽器屋さん？

瀬川 楽器屋さんというより金持ちだった。その息子  
さん。

淀川 姉さんの彼氏だった(笑)

小泉 淀川先生の美人で有名なお姉さんのお富さんの彼  
氏だった。(笑)大発見やわ！

淀川 その頃はダンスホールによく連れて行かれたね。

小泉 ものすごくきれいな方だったんです  
淀川 きれいでないけどとにかくそんな不  
良だった。その不良と松子さん(谷崎潤一  
郎夫人)が仲良かった。それで口惜しかっ  
たのは、どこに行ってもお富さんの弟さん  
ていわれた。腹が立つのね。この頃になっ  
てやっと淀川さんのお姉さんがお富さんで  
す、とやっとな(爆笑)。

もういろんな勉強して、活動写真で音楽  
の勉強をしました。殊にアルゼンチンタン  
ゴね。タンゴが初めて分ったと言われたの  
が大正11年頃ですよ。タンゴって何やとい



ショーボートから

うからタンゴってこうやって踊るんだよという、あ、ダンゴダンスかと、串で男と女をくっつけて踊るからといってね。(笑)

瀬川 アメリカでもタンゴは流行ったんですね。1920年頃、ウアレンチノタンゴ。

淀川 流行って流行ってアメリカ人が喜んだけど二代目があんなものって馬鹿にした。タンゴなんていやらしいっての。ピリー・ワイルダールの「サンセット大通り」でサイレントの女、グロリア・スワンソンがバンドを呼んで来てタンゴを演奏さすの、つばめのウイリアム・ホルデンと二人で踊る。その時お客さんは「何という音楽なの？音楽やっている人が可哀想だ」という感じ。ホルデンは嫌がっているの。そういうところにタンゴを妙に使っているの。

ところが変ってタンゴが流行ったものねえ。

瀬川 タンゴが流行った時代があるんですよ。アメリカというとジャズばかりだと思いますけど。

淀川 ワルツがあったりタンゴがあったりね。けれどジャズはやっぱりアメリカね。サイレントの頃、ジャズは伴奏で入ったの。映画のパーティの場面でブラックの子供のボーイさんにチップをやって舞台上がらすと、さあチャールストンの上手なことね。両手両足全部痙攣して踊るの、それがチャールストンの伴奏によく合うのよ。

チャールストンを踊るようになって靴が変わった、パツクルの先を立てるの。足を見せるのでスカートが半分切れちゃったのね。それで缺で切っちゃったの、髪の毛。だからダンス音楽から衣裳も流行した…。

末広 瀬川先生、音楽の流行で一つ不思議なのは大正時代とか日本で流行した歌、例えば「テルミー」など、どう調べてもアメリカのレコードがないんですよ。



神戸ジャズ・ストリートでの淀川長治氏とベギー葉山さん

瀬川 ほとんどないですね。「アラビアの唄」なども。あれは堀内敏三さんがアメリカから楽譜を持って来たんです。それでNHK、つまりJOAKの放送局が昭和2、3年頃にできた時、じゃんじゃん流したんですね。作詞は堀内さんですから。

末広 レコードかと思ったら楽譜が入って来たんですか。日本で流行ったのにアメリカでは全然…。

瀬川 アメリカではなくなっちゃったんですね。「テルミー」なんて良い曲だ(歌う)

淀川 あなたからテルミーなん言葉を聞く(歌う) 楽しいねえ(笑) テルミーなんていう言葉、もう何年振りかしら。

瀬川 デイック・ミネさんが時々歌いますね。

#### ★宝塚大好き

淀川 そういう何もかもね、最初の天勝の世代、サイレントの世代だけやっぱ宝塚ですよ。

末広 宝塚ですよ。

淀川 その頃はね、小林一三さんとか宝塚の人、儲ける気ないのよ。きれいな衣裳作って粋に誘うシャンソンとか粋なおしゃれのね。ほとんど輸入したり向うの勉強をしたからね。衣裳が良かった、もう美事だったね。バリそのもののレビニュースタイルが入って来たから、僕は宝塚って何で良いんだろうかってね。

末広 僕もどちらかっていうと宝塚、というのはヨーロッパ志向。

瀬川 シャンソン…。

淀川 初めは全部シャンソン。あの時は花道があつてね。花道を全部が自転車出て来て、で舞台で自転車を回転してそれから踊りになるのよ。ダンスになったら上からカーテンがさあーっと足の腿のあたりまで下りるの、足はチャールストンをやっているのね、カーテンに

は面白いベティー・ボーみたいな顔が描いてあって、皆顔を見て笑うの。ずっとカーテンが上がったら、メーキヤップも衣裳も全部変っている。そういう風にショーに懸けていた。だから宝塚が大好きだった。

末広 昔はね、男の学生、皆行きましたよ。

淀川 高島忠夫の学校、関西学院、三日月のマークなのね。それがずらーと……。学校をエスケープして。

末広 亡くなった葦原英了さんが、もう宝塚にぞっこんでしたね。亡くなる前ぐらいに神戸にいらした時、どうしても昔、好きだった役者さんに会いたいんだと——で何となく分ったんです。これは元町で、「紅梅」という店をやっていた草笛美子さん、あのママに会いたいわって言って。

「僕はその頃学生だったんです。一度も手を握った事ないんで、一度握りたい……」そこで僕は「お連れしましょう。」お連れして「はあ……ぞっこん……」(笑)

淀川 葦原英了さんはね、ちやうど野口さんみたいなダンスの方の人なの。あの人はダンスが本格的で、フェミニストの固まりなの。だからフランスにスズランの日なんてのがあって、その日は誰か女の人にスズランを上げるのよ。誰かが居ないのにスズランを持って居るのよね。「淀川さん、これ誰かに上げよう」(笑)知らないよって言ったのね。

あの人ヴァレンチーノに夢中になった。僕も見てびっくりしたの。そのダンスの良いこと良いこと。そのスペインの踊りは、フラメンコじゃなくてもっと上等な、きれいな。葦原英了は夢中でとうとうスペインまでヴァレンチーノに会いに行った。パリに行っているのだから会って「良かったよ」って帰って来た。そんな人……。瀬川 葦原さん偉いですよね。ダンスも向うで勉強なされたんでしょ？

淀川 ダンスはね、研究をしたの。

瀬川 戦前の葦原さんの文章読むとね、シャンソン・ダンスだけじゃなくてバレエなんかの大研究。

淀川 葦原さんそれから野口さん、こういう人には今結構人がいませんね。

末広 野口先生は話していきつと淀川先生のお顔を描いたりね。

淀川 あの人「ライムライト」のチャップリンのきれいだつたことね。あの人絵を描いていたら天下一品よ。

小泉 野呂先生のポスターも素敵ですね。

淀川 野口君はジャズなんて穢らわしいものが好きになつて(笑)何でもしたがつて絵描きにならなかつた。

★音楽好きは優しい人

淀川 僕が一番憧れたのはジジ・ジャンメルとかジャン・ギャパンとかあの頃ですね。

瀬川 昔はビング・クロスビーの「ワイキキの結婚」なんか友達も5、6回見たとか。

淀川 まあ、いやらしい。(爆笑)

瀬川 「海は紅」のシャリー・テンブルとか戦後はアメリカ映画の「姉妹と水兵」とかね。子供の時、最初はアナベラですよ。サンテクジュベリの「夜間飛行」を見て憧れてね。淀川先生に伺いたいのですが、ジョーン・レスリーという女優はどこに行ってしまったのですか？

淀川 ギヤラのことワナーが怒つて、もう要らんとつたの。可愛想だつたね、良かったのにな。

小泉 末広さんはどなたがご最良だつたんですか？

末広 ドナ・リードなんか好きだつたですね。

淀川 ドナ・リード、良かったね。粹ねえ。でもね、何か知らん、ジョン・レスリーとかドナ・リードとかの粋さはすれっからしになると出ないのよ。ドナ・リードはデボラ・カーの先輩みたい、粋でエレガントだつたね。そういうのが趣味なのね、安全だよ(笑)

ジャズが好きだとか可愛いね。やっぱり音楽好きなのは優しい人ですよ。(トムキヤンティにて)



今 崎 陽 吉

△ラジオ関西プロデューサー

神戸でジャズを楽しむ方法伝授

ジャズの盛んな街、ジャズが似合う街。そんな神戸でラジオというメディアを通じて音楽を提供している訳ですが、こと音楽番組に關して言えるのは、つくり手（自分）が楽しまなくてはリスナーも楽しんでくれない。裏を返せば、ラジオ関西がミュージックステーションとして親しまれ、中でもジャズが多く流れるのは、それを楽しんで下さる方が多いということ。神戸はジャズに關してはどこにも負けない文化都市だと実感しています。そんな神戸のジャズファンの一人として、僕なりのジャズの楽しみ方を紹介してみます。神戸は歴史的にはジャズの風土が出来上っているが、ミュージシャンの数やライブスポットなど、ナマの音楽に接するチャンスという点では地方都市の宿命のようなものを感じます。ですから数少ないライブの場で、日頃のストレスを一気に解消してしまうといった熱い姿勢が演じる側に伝わる

ようです。そんな神戸のジャズファンのハートを一番よく掴んでおられる末広光夫氏のプロデュース



ハックルベリー



ワイルドハニーパイ

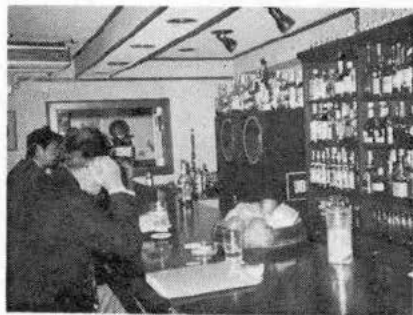
による「全日本デキシールランドジャズフェスティバル」と「神戸ジャズストリート」が、神戸発のユニークなジャズイベントとして全国にアピールしています。又、氏によると、こういった神戸の街のエネルギーが海外にも伝わり、年々評価が高まりつつあることから、地理的なハンディーを考え、神戸らしさを打ち出す為にも、今後海外からのミュージシャンの参加が増えてきそうで、神戸のジャズライブシーンは益々楽しくなっていくそうです。

さて、ライブ以外でジャズの楽しみ方という点ではやはりレコード。ジャズに限らずレコードは新譜よりも旧譜を探すのが楽しみなんです。が、うれしいことに神戸は中古レコードがどこよりも安いと言われています。僕がよく行く所は、元町一番街周辺にある「ハックルベリー」「ワイルドハニーパイ」「リズムキングス」の3店。しかしジャズに關しては、最近いいレコー



リズムキングス

下が出なくなったりとか。CDの普及に伴い、レコードが貴重になる前兆のような気がします。今がチャンスかも知れません。さらにマニアックな世界で神戸にいてうれしいのは、SP盤がたくさん埋もれていることです。価格も東京・大阪に比べるとばらばらに安いよう、これはお店の看板が骨董品屋さんのように、レコードが本業でないこと。又、外人さんが神戸を離れる時、残していったことも幸しています。特にJR元町と神戸駅の間の高架通商店街はそういったお店が多く、ただ通り過すだけでは目につきませんが、奥や2階にびっしりと積み上げてある風なので、訊ねてみられるとよいでしょう。中でもジャズファンで神戸っ子のご主人がいらっしやる「SENKO-DO」は、マニアにとつてうれしいお店です。又、意外な所では、新開地本通湊川公



SHOT BAR・PAPER・DOLL



SENKO-DO



まるぶん

園側のはずれにある「まるぶん」が穴場です。店内にエジソンの蠟管式蓄音機がドーンと鎮座していて圧巻です。ちなみにそんなお店で僕が最近手に入れて悦に入っているのは「ジャズコーラス傑作集」というセット物。日本のジャズコ

ーラスの草分けともいうべき中野忠晴とリズムボーイズの3枚組。又、「ハリウッドテイーパーティー」という6枚組では、懐かしの「べつてーさん」マエク・エステルが聞けたらしてSPの場合、往年のビッグスターにめぐり逢えた気分になるのが不思議です。

最後にジャズにはお酒がつきもので、僕のような40代なかばのジャズファンがふらっと立ち寄れる気に入ったお店があります。加納町4丁目、北野坂を上ってしばらくの右側にある「SHOT・BAR・PAPER・DOLL」。30代以上のお客が大半で、リクエストは一切受け付けないという姿勢が立派。50年代以前のアメリカの古き良き時代のジャズが、JBL・D130バックロードホンのスピーカーからさりげなく流れています。ジャズ喫茶でフュージョンが流れる時代。締め出された寂しいジャズファンの気持を暖かく受け入れてくれるお店です。

さて、お酒が入ると本音が出ます。「どうも神戸のジャズファンは蛍のいない所で蛍がりをしているような気がしてならない。あっちの水は苦いぞ、と言ってもはじめからいらないだから飛んできませんよ。それが田舎だからなお悪い。ミュージシャンは蛍と反対で都会にいるんだよ。」



△特集Ⅱ▽

Kobe Jazz Essay

Jazz & Love

# ステージから愛をこめて



安藤 義則  
△ミュージシャン▽

一般公開されなかったが、*「マザー」* っていう音楽の映画がある。

その映画の冒頭で、ゴスペル歌手である主人公の牧師が言っている。*「ゴスペルとは何か？」*…それは *「福音」* だと… *「神がもたらす大きな力」* だと。

ジャズって何だろう？ ジャズとは即興であり、スウィングであり、ブルースであり、急速に発展する音楽であり、他の総べてのジャンルに影響を与える音楽であり、与えられる音楽である。こういう事はジャズ通の方なら、よくご存知だと思う。私はそれらの事プラス、ジャズに限らず人に感動を与える総べての音楽は *「福音」*



サントノールにて

だと思っている。*「神がもたらす大きな力」* だと思う。

今から25年前、私が初めてジャズの世界に触れた時、日本のジャズ界は大雑把に言って3つのジャンルに分かれていた。時代別にいうと、ディキシランドジャズ、スウィングジャズ、モダンジャズ。それぞれのジャンルの演奏家達はピラミッド状に構成されており、ピラミッドの底辺からスタートして頂点に登って行く。また登る人達に希望を与える階段もあった。例えばディキシではニューオーリンズのブリザベイシジョンホールが頂点だったし、スウィングではベニーグッドマン、モダンでは、マイルスとコルトレインだった。そして底辺と言えば25年前の私の様に、ジャズが好きで好きでたまらない連中だった。あの頃 *「さりげなく」* というジャズ喫茶があり、そこで連日どっぷりとジャズに浸っていた連中の中から今活躍しているジャズミュージシャン

ンが沢山いる。

最初チューバ奏者としてディキシランドからスタートした私は、後にモダンジャズのピアノに惹かれジャズピアノリストとしてバ



「木馬」でライブ

ドパウエルのコピーからピラミッドの階段を登り始めた。その頃教えていただいた鍋島直起先生、小曽根実先生、今 *「人形の家」* のマスターの徳大寺公忠さん、その他多くの方々の音楽を吸収させていただきながら東京に行き、第一線で活躍していた沢山のミュージシ

ヤン達と共演するチャンスに恵まれた。その中には、黒人、白人、東洋人と、いろんな国の人達がいて、ジャズという同じ共鳴体を使って多くの会話が出来た事が今の私の音楽の基盤となっている。

「ラジオ電話リクエスト」この言葉を聴くと多くの方々の胸に懐かしさがよぎると思う。私の青春時代もそうで、よく夏の夜に星空を見ながら一人「電リク」を聞くのが大きな楽しみだった。あの頃、海と太陽と星空が大好きだった学生時代、30年たった今も同じ想いを持っている。夏の海辺で太陽と海と自分が同じ鼓動をしていると感じたり、南の島の星のきらめきが、今迄自分の歩んできた証の一つ一つだったろうかと想いを馳せてしまう。太陽、海、星空、ジャズ（音楽）、私の身体の中では同じ震動で共鳴している。「楽器を演奏する」…というとてもメカニカルな部分が実はとてもシンプルで、今迄の生きざまの投影にすぎない事を「音楽」は私に教えてくれた。

ジャズは自由だ。演奏する曲の組み立ては単純で、時には組み立てすらしない時がある。そうなるにジャズの歴史が作った音の言葉も、時の概念も放たれてしまい、演奏家は自由になる。奏者の魂だけがそこに残る。奏者が自由な

ら、聴き手も自由。「黒」を「赤」に見る人、「陰」を「陽」に感じる人、「歎」を「哀」と受けとめる人…自由だ。この様に演奏者



鍋島直親先生と

と聴衆は全く違った表現の時ですら感動はあり得る。両者はそれぞれの手綱を持って、お互いに独自の魂をその手綱で引き寄せる。純粹に成る。時には涙する事もある業が、ジャズのみならず音楽の持ちうる大きな力だと思っている。

25年の間音楽を演じていて仲間世だと思ふ事がよくある。まったく違う世界と思っていた事が、実は自分が音楽を通して知り得た生きざまと同じ共鳴をしていると感じる時、倅わせだと思ふ。今世界に不幸な出来事が沢山ある。アパートへイト、飢餓問題、交通戦争、福祉問題、これらの問題に対し、今自分に出来る手助けを…の気持で始めたボランティア活動も12年になる。その間に行つたどの活動も多くの方々の御支援があつてこそ、今迄続けてこられたと思

っている。共に生き、共に感じ、共に哀しみ共に喜ぶ。愛の共鳴がお互いに助け合う心となつて我々のボランティア活動を支えてくれます。ジャズを演奏する事、又全てのジャンルの音楽を演奏する事と何ら変りはないと思つている。

「ゴスペルは福音だ」との冒頭の言葉の様に、音の成し得る愛は神の力だと思ふ。私は音楽を通して愛を感じ演奏し続けてゆきたい。きっと私の友人達も同じ気持で皆様に音楽をお贈りしていると思う。東京でも一緒にプレイしていたサテンドールの伊藤修二、いつまでもソウルフルな歌を聴せてくれるチャーリー、ソネのスイン



チャーリーとリハーサル

ギーな川瀬トリオ、他の多くの神戸のミュージシャン達と同じく、私はサントノレレのステージから、私の最高の理解者中谷衣里（サントノレレ・オーナー）、ベースの奥田勝彦、ドラムスの伊藤信男と共に愛のメッセージをお贈りして行きます。